

2023年 季節のカレンダー(夏の特別編)

怪談

ホラー
~Horror~

【口裂け女】

全国で語られる怪異。ある少年が夕暮れの下校道を歩いていると、前方から赤いコートを身にまとった背の高い若い女性が歩いてくるのが見えた。その顔の半分ほどは大きなマスクで覆われていた。少年がその女性の横を通ろうとすると、「わたし、きれい？」と声をかけてきた。「きれいだと思います」と答えると、女性はゆっくりとマスクを外すが、その下から現れたのは耳元まで大きく裂けた口。女はその裂けた口で微笑みながら「これでもきれい？」と尋ねる。少年は逃げようとしたが、すぐにその腕を女に掴まれてしまう。そして少年が最後に見たものは、自分の顔に迫る鋭利なハサミの光景だった。

【ゾンビ】

世界中で語られる怪異。現代では生ける屍を指し、死者が死者のまま蘇り、人を襲う存在を言う。人肉を第二の生命維持のために必要とするが、体は腐り続ける。一方、生前よりも頑強になっており、痛みを感じず、普通に攻撃しただけでは殺すことができない。確実に行動不能にさせるためには、脳を破壊しなければならない。ゾンビに噛まれると即死はせずとも継続的なダメージを受け、やがて死に至る。また、ゾンビによって傷を付けられた人間が死亡すると、やがてゾンビになるとされる。

いったんもめん

【一反木綿】

一反木綿と言えば、水木しげるの作品『ゲゲゲの鬼太郎』でよく知られる名脇役。鹿児島県出身ということから鹿児島弁らしき口調で話す気立ての良い妖怪のイメージだが、発祥地の肝付町付近では、夜になると人を襲う怖い妖怪として知られている。伝承によれば、夜に男が家路を急いでいたところ、空から白い布がすーっと落ちてきて男の首に巻きついてきた。男が素早く脇差しを抜いて白い布を切ったところ、布は消えたが脇差しには血しぶきがついていたという。人に巻き付いたり、顔面を覆って息の根を止めたり、捕まえた人を巻き込んで空へ昇っていくという伝承もある。

参考文献:「日本怪異伝説事典」

:「世界現代怪異事典」

:「日本現代怪異事典」